

(仮称)第2次札幌市 ICT 活用戦略 検討有識者会議
第3回 議事要旨

【議題1】第2次札幌市 ICT 活用戦略(案)について

- ・「都市 OS」という言葉は市民にとってわかりにくいと思うので、表現を見直した方が良いでしょう。施策として実施することは良いと思うが、本戦略に「都市 OS」と記載することには違和感がある。
- ・デジタル人材の育成を産業分野に限定していると受け取れる表記は見直した方が良いでしょう。
- ・市民アンケートで「防災・防犯分野」「福祉・医療分野」での情報化の取組が求められているという結果となっているが、戦略に反映するべきだろう。
- ・市民の期待感を考慮する AI の活用に関する記載については検討するべきだろう。
- ・AI の普及によって、ホワイトカラーの生産性の格差が出てくるだろう。AI を活用できる人と活用できない人の格差が広がる中で、手当てや人材育成などについて、産業面でも具体的な施策を考えていくべきだ。
- ・資料の全体構成が分かりづらい。「背景→前回計画の結果→市民調査の結果→課題の明確化→課題に対する対策→基本理念→体制→具体的な施策・KPI」という流れだとわかりやすい。
- ・市民アンケートの「ICT の活用を期待する分野」について尋ねる質問で、「働き方」に該当する項目がないことが気になる。
- ・業務改革や、データの利活用、デジタル人材の育成なども重要だが、生活目線での施策も盛り込むべきだろう。
- ・市民アンケートの問11において「評価している取組み」と「力を入れてほしい取組み」の差が一番大きい項目が重要だと思うので、「個人情報保護の強化」や「子供に対する ICT 教育の実施」に力を入れるべきだと感じた。
- ・行政窓口の DX 化はもちろん賛成だが、市民は区役所に毎日行くわけではない。除排雪など生活に根付いた部分ももう少し具体的に考えた方が良いでしょう。
- ・企業側に関しては「頑張ってください」という言葉が多いが、都市 OS やデータ連携を考える際に企業が中長期的な目線でどのように取り組んでいくべきかについても具体的に記述があると良い。中小企業こそ DX 化を必要としているので、そのような企業が具体的なアクションを取れるようにするという視点が必要だろう。

- ・市民や札幌市で働く人たちから見て期待に込めていると受け取れるように、リーディングプロジェクトの記載内容を考えるべき。スマートシティの推進の項目では、子育て支援、冬季の除排雪、高齢化社会などの解決に都市 OS が貢献するということを明確に描くべきだ。
- ・遅れを取り戻そうという印象があるので未来に予想されるようなことに対して、先取りする取り組みがあるとよい。たとえば、子供のいじめ防止やオンライン診療の普及などがある。一歩踏み込んだ議論ができると、未来に向けての戦略になるだろう
- ・市民生活にとっては子育て・親の介護と仕事の両立は重要な問題であり、働き方についても施策にクリアに反映されることが望ましい。
- ・市民アンケートの結果を見ると、回答者に年齢の偏りがあると感じた。子育て分野へのICT活用の期待が低く出ている点も、若い人の意見が少ないからではないか。
- ・アンケートに回答した方は、今後の行方に関心がある方だと思うので、アンケート回答結果が施策へどう反映されたかなどについて連絡するようなことも考えてよいだろう。
- ・非製造業は製造業に比べて生産性向上の伸び代がある。札幌は中小企業の非製造業が多いため、非製造業の生産性向上はマストだ。中小企業への支援として M&A やデジタル化、AI の活用などを具体的に進める施策があるとよいだろう。
- ・アンケートによって市民のニーズは把握できたが、企業・産業側の情報は不足していると感じる。民間と市の行政との ICT に関する関わり方には課題があると感じているので、検討すべきだ。
- ・個人情報の取り扱いを必要以上に意識すると、データの利活用が難しくなっていく。札幌市の現在の個人データに関する配慮は過剰すぎる感じもする。市民のニーズが反映されるようなデータの公開の仕方などについては積極的に行うべきだと思うので、戦略に盛り込む際には配慮していただきたい。

以上